

施策評価（平成28年度）

政策コード	5	政策名	未来を担う教育・人づくり戦略		
施策コード	4	施策名	良好で魅力ある学びの場づくり		
幹事部局	教育庁		担当課	高校教育課	
評価者・実施日	1次評価（教育委員会）		平成28年7月14日	2次評価（企画振興部長）	

1 施策の目的等（政策との関連、必要性、取組内容、取組後の姿 など）

学校や家庭を取り巻く教育環境を整え、児童生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成につなげるため、教職員の資質能力の総合的な向上、県立学校の整備等を進めるほか、学校と家庭・地域が連携・協力し、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備する。

2 施策の状況

(1) 代表指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	達成度
		年度								
①	授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合(小6)	86.7	目標		87.0	88.0	89.0	90.0	99.5%	B
	※国語と算数の平均値	H25	実績	86.7	86.0	87.6				
	全国学力・学習状況調査	単位:%	達成率		98.9%	99.5%				
②	授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合(中3)	78.5	目標		80.0	81.0	82.0	83.0	98.6%	B
	※国語と数学の平均値	H25	実績	78.5	78.2	79.9				
	全国学力・学習状況調査	単位:%	達成率		97.8%	98.6%				

※達成度の判定基準 A:100%以上 B:80%以上100%未満 C:60%以上80%未満 D:60%未満

(2) 代表指標の分析（推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等）

代表指標①、②について、小学校87.6%は6.1ポイント、中学校79.9%は7.0ポイント、ともに全国平均値を上回っている。また、調査開始の平成19年度と27年度の伸び率を比較すると、小学校の国語7.3ポイント（全国4.0ポイント）、算数7.9ポイント（全国3.9ポイント）、中学校の国語14.6ポイント（全国8.9ポイント）、数学13.4ポイント（全国8.0ポイント）と全てで全国平均値を上回っている。

(3) 関連指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	備考
		年度								
①	理科が好きだと思う児童生徒の割合(小4～中2)	82.2	目標	/	84.0	85.0	86.0	87.0	100.2%	
		H24	実績	82.9	83.7	85.2				
	秋田県学習状況調査	単位: %	達成率	/	99.6%	100.2%				
②	中学校区における学校支援地域本部や放課後子ども教室等の実施率	89.1	目標	/	91.5	92.3	93.2	94.0	101.6%	
		H24	実績	90.6	94.0	93.8				
	県・生涯学習課調べ	単位: %	達成率	/	102.7%	101.6%				
③	地域と連携して防災訓練等を実施する学校の割合(公立・幼・小・中・高・特別支援)	23.4	目標	/	40.0	43.0	46.0	50.0	108.1%	
		H24	実績	32.1	39.3	46.5				
	秋田県学校安全に関する調査	単位: %	達成率	/	98.3%	108.1%				
④	インターネットセキュリティに関する保護者等講座を新たに行った中学校区の割合(累積)	—	目標	/	30.0	40.0	45.0	50.0	142.5%	
		H24	実績	39.0	52.5	57.0				
	県・生涯学習課調べ	単位: %	達成率	/	175.0%	142.5%				
⑤			目標	/						
			実績							
			達成率	/						
⑥			目標	/						
			実績							
			達成率	/						
⑦			目標	/						
			実績							
			達成率	/						

(4) 関連指標の分析(推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等)

<p>①毎年、理科が「大好き、好き」と好意的な回答をしている児童生徒の割合が増えてきている。好きな主な理由として「内容に興味がある」「考えるのが楽しい」などが挙げられており、各校において授業改善が進んでいることが要因と考えられる。</p> <p>②学校の統廃合により、平成26年度に比べ中学校が4校減少したことにより、実施中学校区も111校から107校へ4校区減少した。そのため、実施率が0.2ポイント減少したが、目標は達成している。</p> <p>③地域と連携して防災訓練等を実施する学校の割合は、平成26年度の39.3%から平成27年度は46.5%と7.2ポイント上昇した。東日本大震災から5年が経過し、学校を核として地域社会全体で学校安全に取り組む体制が整備されてきていると考える。</p> <p>④インターネットセキュリティの県庁出前講座の要請が高く、平成27年度は全114校区中54校区(のべ123回)で実施した。その他、主に中学校区を対象とした地域サポーター養成講座も17校区で実施した。結果として、114校区中65校区と、目標を大きく上回る結果となった。</p>
--

(5) 施策の推進状況（施策の方向性ごとに記載）

① 質の高い学習の基盤となる教育環境の整備

●取組① 教職員の資質能力の総合的な向上を図る研修の実施

- ・学校組織活性化のためのマネジメントに係る研修を、校長、教頭等の管理職や、教務主任、学年主任などの各主任を対象とした研修に加え、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、中堅教員対象の「ミドルリーダー養成研修」においても設定し、教職員のライフステージに応じてチーム学校の一員として必要な資質能力の向上に資する研修を行った。
- ・初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修の間に、採用3年目と8年目の教員を対象とした「授業力向上研修」を設定し、若手教員の、授業力を中心とした実践的指導力の向上に資する研修を系統的に行った。
- ・研修の実施に当たっては、幼小、小中、中高などの合同研修を設定するとともに、各教科共通のテーマを設定して協議を行うなど、校種間、教科間の連携強化にも努めた。

●取組② 個別課題に対応した多様な研修の実施

- ・国語、算数・数学、理科においては、C T（中核教員）を活用した指導力向上研修会を実施している。各校の当該教科の担当が、本事業に2年に1回参加してC Tの優れた授業の成果を共有する機会とした。
- ・中高学習指導研究協議会を開催し、中学校・高等学校における学習指導について、中高の教員が相互理解を深めるとともに、日々の授業を充実させるための方策について研究協議を行った。また、大学教員等を招聘し、より広い視野で中高接続の在り方等についての協議も深めた。
- ・県立高等学校教員5人を東北大学大学院理学研究科に派遣して研修を行うことにより、教員の指導力向上を図るとともに、高大接続の在り方などについて見識を深めた。
- ・特別支援教育セミナーによる実践的研修では、特別支援学校が培ってきた専門性を提供するため、特別支援学校の教員と担当指導主事を小・中学校に125校、188回派遣し、特別支援教育担当職員183人の実践的指導力の向上を図った。

●取組③ 活気に満ちた魅力ある学校づくりの推進

- ・平成28年4月からの10年間を計画期間とする「第七次秋田県高等学校総合整備計画」を策定した。
- ・平成28年4月の大館桂桜高等学校、秋田南高等学校中等部の開校、大館鳳鳴高等学校定時制課程の設置、また同課程と角館高等学校定時制課程へのスペース・イオの開設に向けた準備を進めた。
- ・秋田南高校中等部・能代松陽高校・角館高校・大館桂桜高校の整備や秋田中央高校・秋田工業高校・大曲農業高校等の改築を実施した。また、比内支援学校の基本構想を策定した。

●取組④ 私立学校の運営や高校生、大学進学者等に対する経済的支援

- ・私立学校教育条件の維持向上並びに生徒及び保護者の経済的負担軽減を図るため、高等学校を設置する法人の運営費等に対する助成を行った。
- ・私立高等学校に通う生徒及び保護者の経済的支援を図るため、国が支給する高等学校等就学支援金に加え、私立高等学校授業料・入学料軽減補助を行った。
- ・授業料以外の負担軽減を図るため、奨学のための給付金を給付した。
- ・子育て世帯の経済的負担を軽減し、学習意欲のある学生等が学業を継続できるようにするため、大学生等に奨学金を貸与する（公財）秋田県育英会に助成した。

② 学校・家庭・地域の連携と協力による子どもを育む環境の整備

●取組① 地域と学校が支え合い、地域ぐるみで子どもを育む体制の充実

- ・事業運営協議会や庁内担当者会議を開催し、事業の目指す方向性について確認を行った。また、学校・家庭・地域連携協議会と指導者等研修会を開催し人材育成を図った。
- ・市町村が取り組む、放課後子ども教室や学校支援地域本部、わくわく土曜教室等の各事業の充実を図るため、市町村担当者研修会等を実施した。

●取組② 地域社会全体で学校安全に取り組む体制の整備

- ・地域社会との連携を通じた学校安全体制を強化するため、組織活動の充実を図った。また、全県の小・中・高等学校、特別支援学校の教職員を対象とした研修会においては、地域と連携した防災訓練等の重要性を解説するなど、学校と関係機関等との更なる連携の強化を図った。

●取組③ 関係団体等との協働による家庭教育支援の体制づくり

- ・子どもたちのインターネット健全利用（インターネットセーフティ）について民間等と協働して取り組み、出前講座やリーフレットによる啓発、「少し詳しい大人」の養成等により、インターネットセーフティの仕組みづくりを推進した。
- ・家庭教育支援事業については、フォーラムや県庁出前講座を実施し、家庭教育の諸課題について広く周知・啓発に努めた。また、市町村担当者等を対象に研究協議会を年2回開催し、家庭教育支援施策の充実に向け研究協議・情報交流を図った。

3 総合評価

(1) 教育委員会による1次評価

評価結果	順調
評価理由	<p>代表指標については、平成26年度よりも達成率が上昇し、全て全国平均を上回っており、良好な状況である。関連指標についても、目標を達成しており、学校・家庭・地域が連携し子どもを育む体制の整備につながっている。</p> <p>授業力向上や学校経営参画力の向上を図る研修、教職員のライフステージや今日的な教育課題等に応じた研修の実施により、教職員の資質向上が図られている。また、魅力ある学校づくりの推進のため、第七次秋田県高等学校整備計画を策定した。</p> <p>民間等と協働して取り組んでいるインターネットセキュリティは、講座要請の高さなどから家庭教育の課題等を的確に捉えた取組となっている。</p> <p>以上のことから、本施策の評価は「順調」とする。</p>

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	順調
評価理由	<p>教育環境の整備については、教職員のライフステージに応じ学校経営参画力の向上や授業力向上に向けた研修を実施したほか、国語、算数・数学、理科において教科指導の中核となる教員を養成するなど、教員の指導力向上に向けた取組を進めるなどにより、代表指標である「授業の内容がよくわかると思う児童生徒の割合」は小6・中3とも目標値には達成していないものの、全ての教科で全国平均値を上回っている。</p> <p>また、子どもを育む環境の整備として、学校・家庭・地域連携協議会による人材育成や地域と連携した防災訓練等学校安全体制の強化を図ったほか、民間等との協働によるインターネット健全利用の取組等により、放課後子ども教室等の実施率など関連指標については、達成している。</p> <p>以上のことから、施策は「順調」と評価される。</p>

4 課題と今後の対応方針

① 課題（施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など）

<ul style="list-style-type: none">・CT（中核教員）を活用した指導力向上研修会については、内容の一層の充実を図っていく必要がある。・県立学校の老朽化が進んでいる現状にあることから、計画的な整備等を進めていく必要がある。・地域と連携し防災訓練を実施する学校は増加しているが、他校種や関係機関との連携を深め、更なる地域連携の強化を図る必要がある。・地域ぐるみで子どもを育むため、学校支援地域本部、放課後子ども教室、わくわく土曜教室、地域未来塾、家庭教育支援チームと事業が拡大してきているが、事業間のコーディネートを図るなど、効果的に事業を行う仕組みづくりが必要である。・子どもたちのインターネット健全利用に向けた、関係団体等と協力しての予防的な取組には一定の効果が見られた。今後は、今現在、ネット依存傾向にあって困っている親子に対する取組も必要である。

② 今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）

<ul style="list-style-type: none">・CT（中核教員）を活用した指導力向上研修会に秋田大学の教員を講師に招くなど、より専門的な視点で内容の充実を図る。・今後、改築等が予定される学校については、関係者と十分調整を図りながら、計画に沿って着実に事業を進めていく。・地域のもつ影響力や可能性を捉え直すとともに、「地域連携」を柱にした新たな取組を実施し、地域の力を糧とした学校安全教育の展開を図っていく。・地域ぐるみで子どもを育む体制の充実に向けて、事業全体をコーディネートする統括コーディネーターの配置、コーディネーターチームの設置、コミュニティ・スクールとの連携など、効果的に事業を行うために、新たな仕組みづくりをする。・これまで培ってきたネットワークを生かし、県医師会等と協力し、今現在、ネット依存傾向にある子どもたちを対象としたキャンプを実施する。子どもたちだけではなく、家族会も開催し、親子でネットやゲームへの付き合い方を考えるきっかけとする。

5 政策評価委員会の意見

--